

公募説明会

対象テーマ：

「ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業／
ロボット基盤モデルの研究開発（GENIAC）」

2026年02月26日

経済産業省

商務情報政策局 情報産業課 AI産業戦略室

国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

AI・ロボット部 人機械共進化チーム

説明内容	説明者
1 はじめに	NEDO
2 事業概要等	経済産業省
3 公募要領等	NEDO
4 応募方法等	NEDO
5 質疑応答	経済産業省・NEDO

政策的背景について

公募内容について

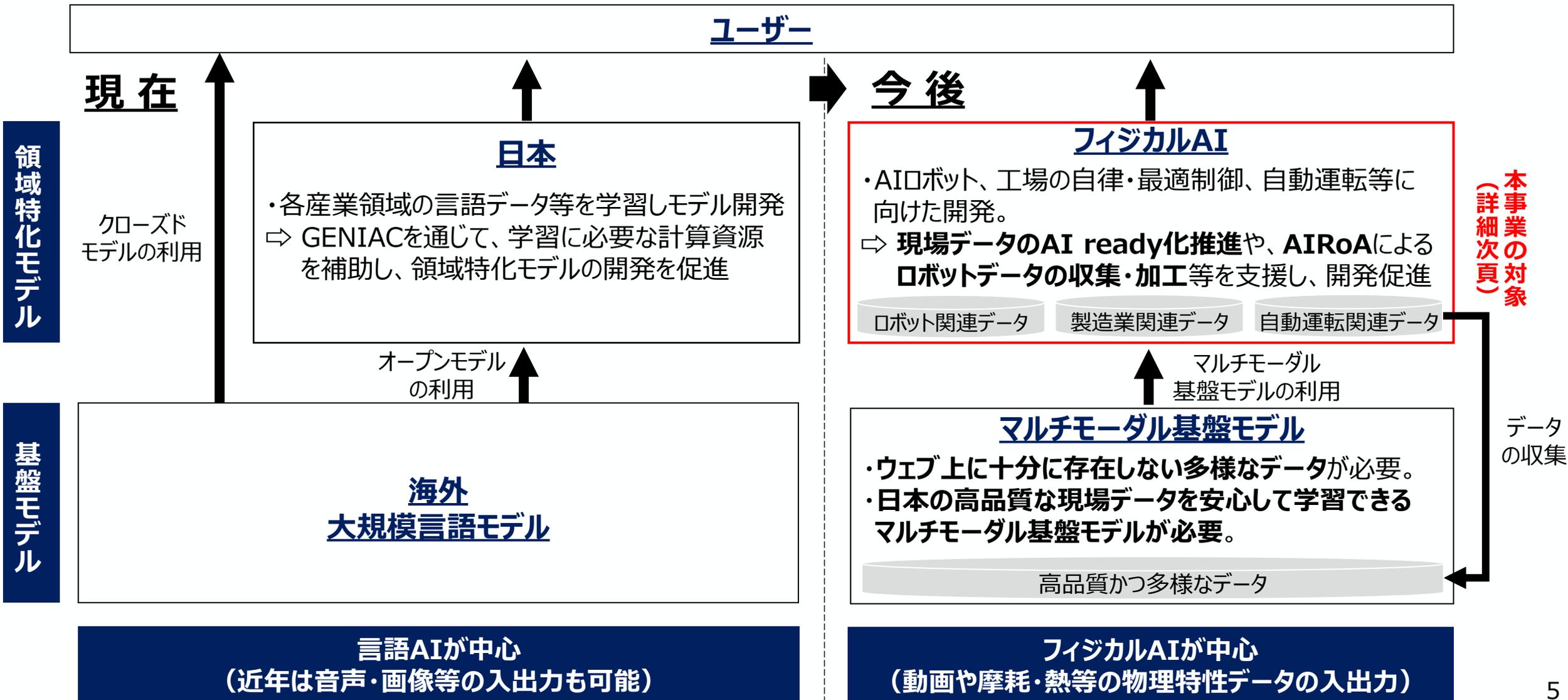
フィジカルAIの重要性

- フィジカルAIは、工場の自律制御・最適化、ロボットの自律制御、自動運転などを実現するための基盤となるもの。
- フィジカルAIの開発では、言語に留まらず、多様なデータを扱うマルチモーダル基盤モデルが不可欠。



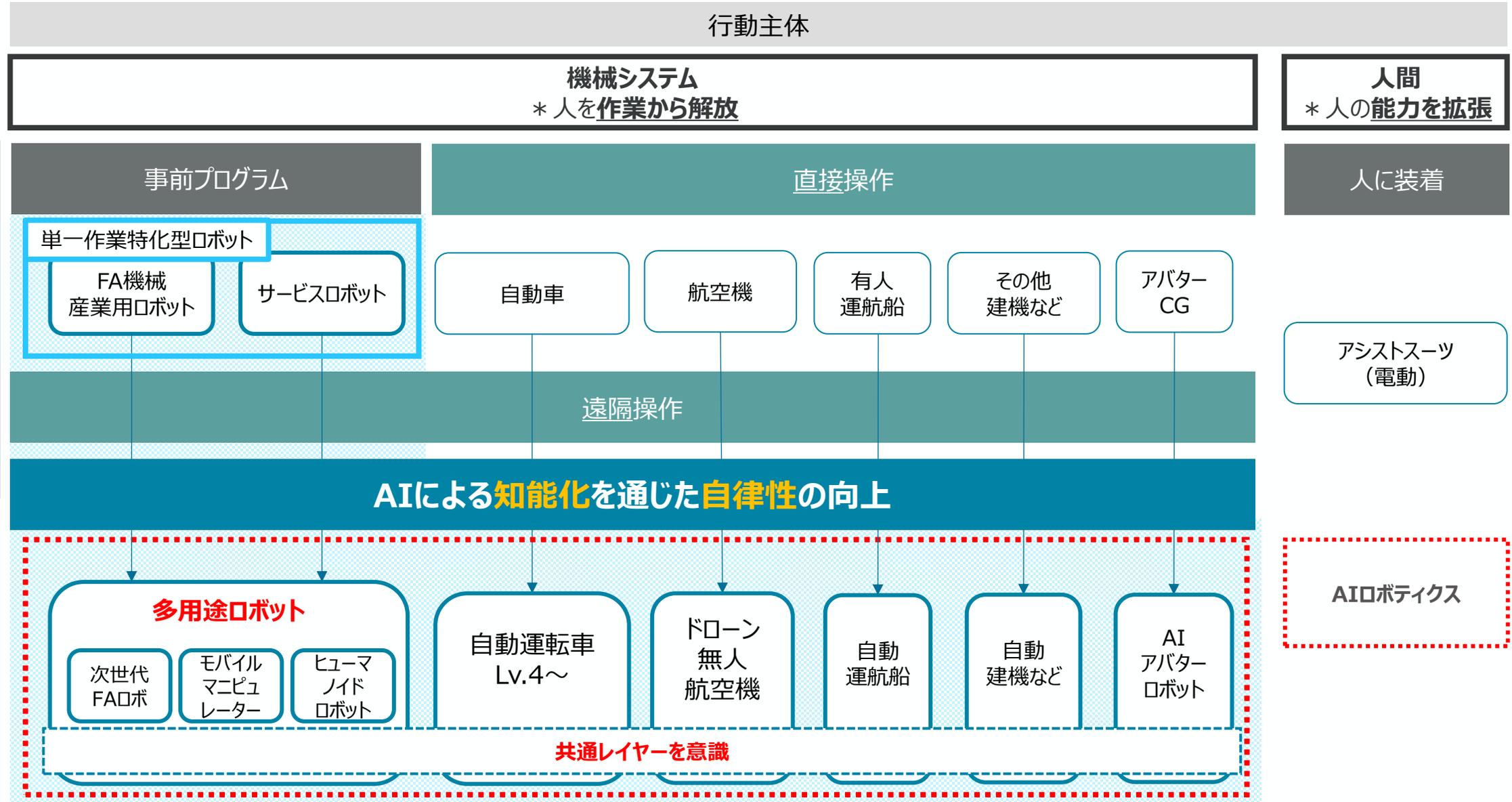
フィジカルAIの開発

- まずは、日本企業で一般的に活用されるオープンモデルと同程度の基本性能のモデルを開発。それ以降はAIロボットや工場の自律・最適制御、自動運転等を念頭に、扱えるデータの多様性や思考の深さをステップ・バイ・ステップで獲得する方針。



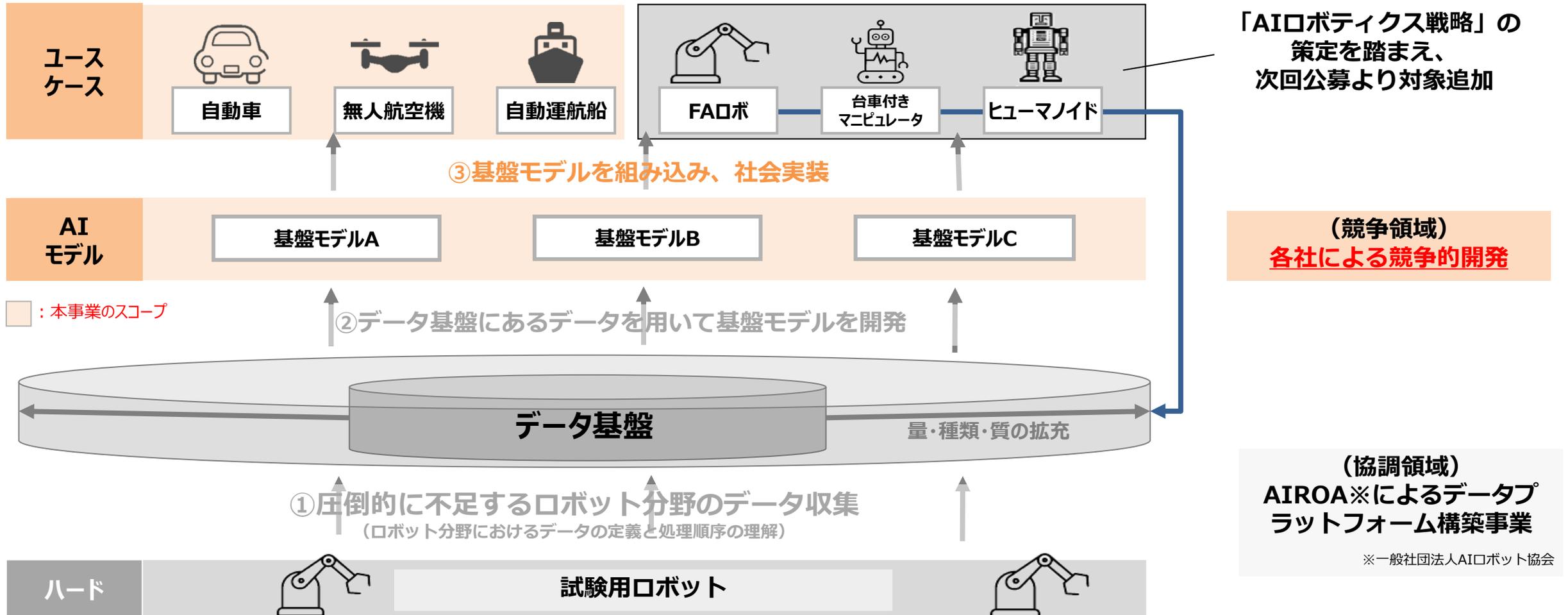
<参考> ロボティクス概念の整理

ロボットとは「センサー, 知能・制御系, 駆動系の3つの要素技術を有する、**知能化した機械システム**」
 (経済産業省「ロボット政策研究会」(2006年)における定義)



ロボティクス分野におけるデータエコシステム構築とAI開発の促進

- 言語や画像分野と異なり、ロボット分野における汎用的なAI開発は世界でもまだ進んでいない状況。
- 本事業では、AIによる知能の高度化を通じて自律制御を実現する機械システムに搭載され、当該ハードウェアを直接制御するロボット基盤モデルを開発する。



<参考> AIロボティクス戦略の策定に向けた検討体制

- AIロボティクス戦略の策定に向けた検討を進めるため、内閣官房副長官補の下にAIロボティクスに関する関係府省連絡会議及び連絡会議幹事会を設置し、合わせて経済産業省に有識者で構成するAIロボティクス戦略検討会議を設置する。
- AIロボティクス戦略検討会議では戦略素案および実装ロードマップ案を策定し、関係府省連絡会議では戦略素案を踏まえながら議論を行い、戦略および実装ロードマップを策定し、毎年戦略や実装ロードマップのフォローアップを行い、必要に応じて更新する。

AIロボティクス関係府省連絡会議

【局長級】議長：副長官補内政担当（阪田補）

【幹事会】議長：副長官補付内閣審議官ヘッド

- 戦略検討会議で検討した戦略案と各分野の実装ロードマップを議論し、決定。その後、戦略のフォローアップと、実装ロードマップの更新を毎年実施。
- 政府として政府調達や業所管の関係省庁が責任をもって実装ロードマップ（10年程度）を策定・履行する中長期の枠組みとして関係府省連絡会議を設置。



AIロボティクス戦略素案の提示

AIロボティクス戦略検討会議

- ロボットを活用する各分野を代表する有識者の意見を把握し、AIロボティクス戦略素案および実装ロードマップ案を年度内にとりまとめ、関係府省連絡会議に提示する。
- 経産省が事務局、関係省庁もオブザーバーとして参画。

政策的背景について

公募内容について

P5G研究開発事業 研究開発計画

(g9) ロボット基盤モデルの研究開発 (GENIAC) (助成)

日本は、**人口減少を背景とした構造的な人手不足**により、あらゆる産業において**深刻な労働供給制約**の影響が顕在化しつつある。また、中堅・中小企業を含めたサプライチェーン全体がDXを通じて生産性を高め、GXを実現することが求められている。

こうした局面を打破するには、AIの本格的な社会実装が急務であるが、人間が物理的な実体である以上、**AIとそれを搭載したロボット (AIロボット) を一体的に導入することが不可欠**。これを通じて、各産業の労働供給を補完し、生産性を高めるとともに、**AI・ロボット産業を日本の新たな中核産業へと飛躍**させることが重要。

従来、ロボティクス分野では知覚・計画・制御等のプロセスごとにソフトウェアが必要だったものが、AIの加速度的な発展を背景として、知覚・計画・制御に機械学習や基盤モデルを統合し、自律性や汎用化を高めるAIロボティクスの研究開発競争が激化。VLAやVLMといったロボット基盤モデルの登場など、ソフトウェア技術スタックの構成に変化が生じている。

こうした背景の中で、AIロボティクス分野における日本としての産業競争力の強化や経済安全保障の観点から、本テーマでは、**自動運転車、ドローン・無人航空機、自動運航船等の領域に関して、AIによる知能の高度化を通じて自律制御を実現する機械システムに搭載されるためのロボット基盤モデルの開発**に取り組むこととする。

P5G研究開発事業 研究開発計画

<開発対象>

本事業ではロボット基盤モデルを開発対象とする。

なお、本事業におけるロボット基盤モデルとは、A Iによる知能の高度化を通じて自律制御を実現する機械システムに搭載され、当該ハードウェアを直接制御するロボット基盤モデルをいう。

※ 公道、航路等の公共インフラを利用する自動運転車、ドローン・無人航空機、自動運航船等の機械システムを直接制御するロボット基盤モデルに限る。

※ ロボット基盤モデルの実現に不可欠なロボット向けV L Mや、世界モデル（環境理解・予測モデル）といった周辺コア技術を含む。

<開発目標>

- 開発したロボット基盤モデルによって環境や指示を認識し、柔軟かつ適切なフィードバックを生成することで、自律制御を実現すること。
- 開発した生成AIの基盤モデルが国際的に比較して十分な優位性があることを検証すること。

※ 提案者にて、ベンチマークや、「最先端レベルに対してN%以上の性能を達成できる」といった目標を提案時に設定すること。

P5G研究開発事業 研究開発計画

<期間>

- 原則1年以内。
※ ただし、オンプレミス環境の構築要件を満たし、且つ、外部有識者評価等で認められた場合に限り、最大3年間を認める。

<予算規模>

- 200億円程度（※1件あたりの上限なし）

P5G研究開発事業 研究開発計画

<オンプレミスの要件>

ロボット基盤モデルの開発は、通常の基盤モデルの開発とは異なり、主に動画データ等の大容量データによる学習が必要であり、学習効率の向上が本事業の研究開発成果の向上に特に直結することから、以下の要件を全て満たし、合理的であると認められる場合には、オンプレミス環境の構築を認めます。ただし、GPUの利用目的は、当該補助事業者が自ら行う基盤モデルの研究開発に限定し、処分制限期間中における目的外利用（他のモデル開発事業者に対するGPUサービスの提供等）が判明した場合には、採択を取り消し補助金の返還を求める場合があります。

(オンプレミス環境の構築の要件)

- I. 開発目標の実現に向けて、継続的に大規模な計算資源を要する大規模な独自のデータセットを用いた基盤モデル開発が必要であることを示すこと。その際、開発目標、その実現に向けた開発計画、必要とする計算資源量、データセットの規模をそれぞれ具体的・定量的に示すこと。
- II. クラウドサービスとオンプレミス環境において、事業期間内での、調達費用と学習効率の費用対効果を比較し、オンプレミス環境の方が優れていることを定量的に示すこと。その際、クラウド調達する場合の見積書を提出すること。
- III. 提案者が本事業で想定するモデル規模及び学習方式を前提として、ロボット基盤モデルの学習に特化した大規模な専用GPUクラスタの構築において、計算・通信・ストレージの3要素におけるボトルネックになり得る要因を具体的に示すとともに、それらを解消するための具体的な技術的アプローチを記載すること。その際、学習効率の向上において特に重要となるインターコネクトネットワークの帯域、ストレージの容量及び速度を定量的に示すこと。
- IV. 提案者が、大規模な専用GPUクラスタを用いた基盤モデルの開発に関し、十分な経験及び実績を有していることを示すこと。
- V. 提案時点で、データセンターの用地及びGPUの調達目処が立っていること。その際、使用するデータセンターとGPUを具体的に明記すること。
- VI. 本事業で構築した専用GPUクラスタの構築・運用ノウハウは公開し、他の開発事業者が模倣可能な形にすること。

※上記の要件を満たさない場合、オンプレミス環境による構築を認めず、iiで提出した見積書に基づくクラウド調達に変更する。

P5G研究開発事業 研究開発計画

<応募条件>

- 導入予定環境での実証を**必須**とする。
※ 実証とは、ロボット基盤モデルを搭載した機械システムを、実際の産業現場や公道、航路等の導入予定環境に導入し、当該基盤モデルの性能及び適用範囲を検証するプロセスを指す。
- 本事業成果の将来的な導入・展開について意思決定を行う立場にあるパートナー企業（量産メーカー（OEM）、一次サプライヤー（Tier1）、ユーザー企業等）と連携した実証とすること。具体的には、当該パートナー企業との連名による提案とすることを推奨。なお、提案者自身がその意思決定を行う立場にある場合は、この限りではない。
- 経済産業省が指定するコミュニティに積極的に参加すること。
- 経済産業省から開発するモデル等について情報提供の依頼があった場合には、それに応じること。また、**使用するベースモデルや合成データの生成に用いるモデル**については、必要に応じて、経済産業省、NEDOと調整の上、その指示に従うこととする。また、開発を進めるにあたっての詳細は、必要に応じて、経済産業省、NEDOと調整の上、決定することとする。
- 本事業の開発成果や実証成果は、経済産業省・NEDOが実施する「AIロボット・フィジカルAIを見据えたマルチモーダル基盤モデル開発事業」への**成果還元**を行うこと。成果還元の詳細は、経済産業省、NEDOと調整の上、決定することとする。

説明内容	説明者
1 はじめに	NEDO
2 事業概要等	経済産業省
3 公募要領等	NEDO
4 応募方法等	NEDO
5 質疑応答	経済産業省・NEDO

公募要領：事業内容

■事業内容

本事業では、ポスト5Gに対応した情報通信システム（以下、「ポスト5G情報通信システム」）の中核となる技術を開発することで、我が国のポスト5G情報通信システムの開発・製造基盤強化及びデジタル社会と脱炭素化の両立の実現を目指します。

今回の公募では、**自動運転車、ドローン・無人航空機、自動運航船等の領域に関して、AIによる知能の高度化を通じて自律制御を実現する機械システムに搭載されるためのロボット基盤モデルの開発**を行います。

本事業の詳細については、経済産業省が公開する

ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業の研究開発計画（以下、P5G研究開発計画）を参照してください。

参照：ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業研究開発計画

https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/joho/post5g/index.html

○ 研究開発項目

① ポスト5G情報通信システムの開発（委託、助成）

(g) 計算可能領域拡大のための計算基盤技術開発（委託、助成）

【対象の開発テーマ】

(g9) **ロボット基盤モデルの研究開発（GENIAC）**（助成）

経済産業省の公募情報

https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/joho/post5g/20260220.html

公募要領：公募対象・予算規模・補助率

■公募対象：

ロボット基盤モデルの開発（補助）

ロボット基盤モデルとは、AIによる知能の高度化を通じて自律制御を実現する機械システム（注1）に搭載され、当該ハードウェアを直接制御するロボット基盤モデル（注2）を指します。

- 注1：本公募では、公道、航路等の公共インフラを利用する自動運転車、ドローン・無人航空機、自動運航船等の機械システムを直接制御するロボット基盤モデルに限ります。

多用途ロボット（次世代FAロボと、モバイルマニピュレーター、ヒューマノイドロボット、サービスロボット等）は本公募の対象外とします。多用途ロボットについては、今年度内に策定する我が国のロボット産業の将来像をとりまとめた戦略の内容を踏まえ、2026年4月以降に改めて公募予定です。

- 注2：ロボット基盤モデルの実現に不可欠なロボット向けVLMや、世界モデル（環境理解・予測モデル）といった周辺コア技術を含みます。

■予算規模：

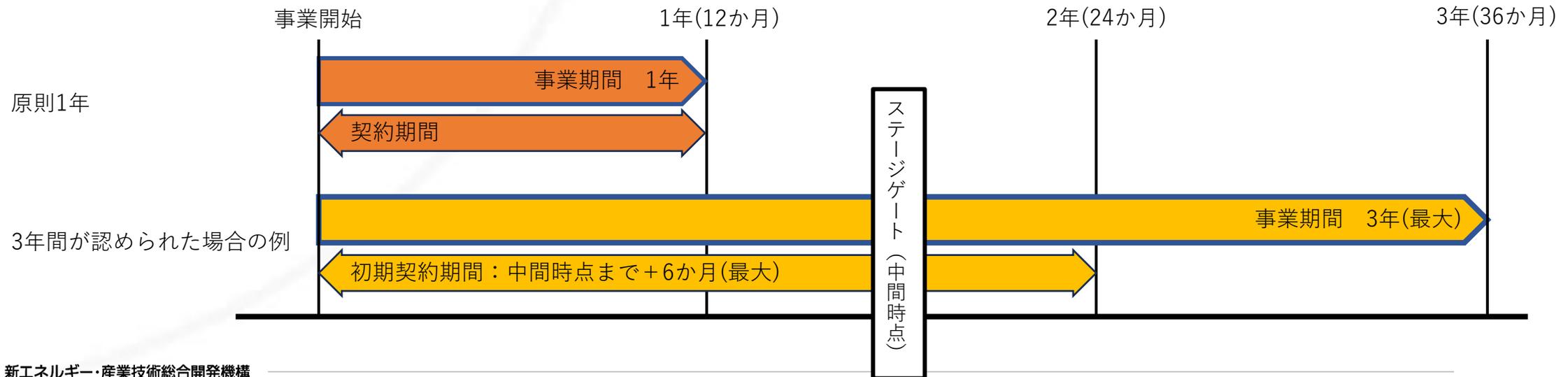
200億円程度（その他公募事業の状況に応じて変動があり得る）であり、予算の範囲内で採択先を決定します。

■補助率（1提案当たりの予算上限）：

- 【中小企業等経営強化法に基づく特定事業者と学術機関等】 **2 / 3（予算上限なし）**
- 【上記に該当しない企業】 **1 / 2（予算上限なし）**

■事業期間

- 事業期間は、2026年度6月以降に開始するものとして**原則1年**とし提案書は1年の計画で作成してください。
- ただし、**オンプレミス環境の構築要件を満たし、外部有識者評価等で認められた場合に限り、最大3年間**を認められますので、希望する場合は希望する事業期間（2026年6月以降に開始するものとして最大3年間）の計画で作成してください。当初交付決定する期間は、事業開始から24か月（※後述する**ステージゲート審査後の調整期間として6か月を加えたもの**）以内とします。事業期間が1年を超える場合は、各開発テーマの**研究開発開始から終了までの中間時点（3年の場合は、研究開発開始時点から1.5年後）を目途に、ステージゲート審査を実施し、継続の可否の判断**を行う予定です。なお、採択審査段階等における外部有識者の審査で認められた場合には、ステージゲート審査時期の目途よりも前後に実施することも可能とします。
- 事業開始後も、日本国政府の予算又は方針の変更、ステージゲート審査の実施等により、必要に応じて、実施内容の見直しや予算の増加・減少、研究開発の中止を実施する場合があります。



公募要領：応募要件

■補助対象費用

本補助事業は「ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業費補助金交付規程（以下、交付規程という）」に沿って実施します。補助の対象となる費用は、交付規程第6条に示すとおりです。詳細は、交付規程最終ページ別記の表をご確認ください。原則、補助金交付申請額は、消費税等を除外した額となります（免税事業者等を除く）。

I. 機械装置等費

II. 労務費

III. その他経費（消耗品費、旅費、外注費、諸経費）

IV. 委託費・共同研究費

- 補助事業者が事業内容の一部を委託又は共同研究を行う場合には、あらかじめ交付申請書への記載が必要です。委託及び共同研究の補助対象費用額は**原則として補助対象費用の総額の50%未満**です。
- 学術機関等への共同研究費の定額補助（100%補助）
補助事業者（提案者）が学術機関（国公立研究機関、国立大学法人、公立大学法人、私立大学、高等専門学校、国立研究開発法人）等と共同研究を実施する場合、交付規程第6条第2項に基づき、当該共同研究費については定額補助とします。**学術機関等が補助事業者（申請者）となる場合や、補助事業者（申請者）が学術機関等に技術開発の一部を委託する場合は、定額補助とはなりませんのでご注意ください。**
- 加えて、学術機関等への共同研究費のうち、NEDOが公共性・公益性があると認めた研究開発に要する費用については、交付規程第25条に定める収益納付の対象から除外できるものとします。収益納付の対象から除外となる、公共性・公益性のある共同研究を提案される場合は、提案書内に記載ください。審査において、認められなかった場合は、通常通り、収益納付の対象とさせていただきます。

公募要領：実施要件

■実施要件

本事業は、採択後、「ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業費補助金交付規程」に沿って、交付申請書等を作成いただき交付決定を行います。補助事業の事務処理においては、NEDOが提示する事務処理マニュアルに基づき実施いただきます。

事業の実施にあたっては、該当する交付規程及びマニュアルを遵守いただくことが要件となります。

【参考】補助事業の手続き：交付規程・様式

https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/hojo_josei_koufukitei_koufukitei.html

ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業費補助金交付規程

https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/hojo_josei_koufukitei_yoshiki_5g.html

補助事業の手続き：マニュアル

<https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/manual.html>

なお、上記資料は提案受付期間に内容の更新を行う場合があります、最新版を適用するものとします。

採択後の事業費の支払についてはNEDOの事務処理マニュアルをご確認ください。

- * 提案者の財務状況に応じては**支払方法に条件が付される場合**がございます。
- * 「補助対象費用を研究開発開始時に一括で支払う」のような支払方法ではございません。
マニュアルで**支払時期等をよくご確認ください**、提案書を作成してください。

公募要領：提出書類

■提出書類

提出書類
提出書類のチェックリスト
別添1：提案書
別添2：主任研究者研究経歴書
別添3：提案者情報
別添4：ワーク・ライフ・バランス等推進企業に関する認定等の状況
別添5：事業開始年度の賃金を引き上げる旨の表明資料（任意）
別添6：提案概要（＊）
別添7：PMS利用申請 事業者情報
別添8：NEDO 事業遂行上に係る情報管理体制の確認票
直近の事業報告書 直近3年分の単体／連結財務諸表（原則、円単位）（※）

※各種様式は公募ページからダウンロードください。

- ・独自様式を用いないこと。
- ・提出書類は日本語で作成してください。
- ・「応募要件」を満たさない者の提出書類又は不備がある提出書類は受理できません。
- ・提出書類に不備があり、提出期限までに修正できない場合は、提案を無効とさせていただきます。受理後であっても、応募要件の不備が発覚した場合は、無効となることもあります。

【ご留意いただきたい事項】

提出いただいた書類等に不正もしくは虚偽の情報が含まれ、本事業の実施、事業化を進めるにあたり悪影響があると判断された場合は、ご提案が採択された場合でも、**交付決定の一部または全ての取消し**を行わせていただくことがございます。交付決定の取消しは事業開始時に遡って実施されるとともに、補助金（加算金および、必要に応じて延滞金を附す）の**返還請求**も行われますので、提出いただく資料の内容は十分にご確認をお願いします。

公募要領：スケジュール・交付申請

■選定スケジュール

- 2026年3月23日：公募締切
- 2026年4月上旬（予定）：採択審査委員会（外部有識者による審査）
- 2026年4月下旬（予定）：契約・交付審査委員会
- 2026年5月上旬（予定）：採択先決定
- 2026年5月中旬（予定）：ウェブサイト公表
- 2026年6月中旬（予定）：交付決定

※ 採択先決定後、速やかに交付申請手続きを進めると早期の交付決定が可能となります。「課題設定型産業技術開発費助成事業」事務処理マニュアル等を参考にし、必要書類の早期提出にご協力ください。

■交付申請について

<提出資料>

- ・必要な書類や内容は、補助事業マニュアルを参照してください。
「課題設定型産業技術開発費助成事業」事務処理マニュアル
- ・特に以下の文書を精緻に書いていただくことがポイントです。
 - 実施計画書（本文、事業化計画書）
 - 項目別明細表
 - 研究体制表（登録研究員など）

交付申請時の提出書類留意点

■ 交付申請書類記載上の留意点

スムーズに交付申請手続きを進めるために下記のチェック項目に留意のうえ記載してください。

・ 実施計画書

研究開発の背景と目的、目標、事業による効果が適切に書かれているか。

目標は中間目標、最終目標を記す。

1年を超える事業期間の場合は年度毎の目標も記載。

目標は達成の有無が確認できるような記述となっているか。

研究開発項目ごとに、目標が明確か。

実施計画（工程表）は、研究開発項目ごとに適切に書かれているか。

目標（マイルストーン）との対応が分かるか。

研究開発項目間の連携が分かるか。

・ 項目別明細表

費目や数値は正しいか。

労務費は健保等級に基づいて適切に算出されているか。

・ 研究体制表

登録研究員が適切に挙げられているか。

各登録研究員が実施する内容について、研究開発項目との対応が記入されているか。

説明内容	説明者
1 はじめに	NEDO
2 事業概要等	経済産業省
3 公募要領等	NEDO
4 応募方法等	NEDO
5 質疑応答	経済産業省・NEDO

応募方法

電子申請システム「**Jグランツ**」を利用して応募していただきます。

- **代表法人の方が必要情報の入力と提出書類のアップロードを行ってください。**
- 代表法人、共同提案法人の双方から同一の提案をされる方がいますが、**必ず代表法人の方のみが応募**を行ってください。
- 応募には**GビズIDの取得が必須**です。取得には**2週間以上かかる場合もあるため、未取得の方はすぐに申請**ください。
- なお、持参、郵送、FAX又はE-mailなど、「**Jグランツ**」以外での提出は**原則受け付けません**。

【提出にあたっての留意事項】

- ① **提出書類は全て日本語で作成**し、提案書は**最大で50ページ以内**としてください。
- ② 「**応募要件**」を満たさない提出書類、または、**不備がある提出書類は受理できません**。
- ③ **提出書類に不備があり、提出期限までに修正できない場合は提案を無効**とさせていただきます。受理後であっても、応募要件の不備が発覚した場合は、無効となる場合があります。
- ④ **Jグランツ上の申請は、提出期限を厳守**ください。提出期限までに申請完了できなかった場合は、応募は受け付けできませんので、余裕をもって提出してください。
- ⑤ 再提出は受付期間内であれば何度でも可能です。**再提出を希望される場合は、NEDOでの差戻しが必要になりますのでメールにてご連絡**ください。
送信先：**pj_robo_fma[*]nedo.go.jp**
(上記アドレスの[*]を@に変えて使用してください。)
- ⑥ 万が一、**応募者の責に依らない理由**（例：組織形態上、GビズIDの取得がそもそも不可でJグランツが利用できない、Jグランツ等の外部システムの障害発生により申請ができない等）により、提出期限までにJグランツ上の申請が困難な場合には、**提出期限前までに必ずNEDO担当者まで連絡**し、NEDO担当者の指示に従ってください。
- ⑦ Jグランツ上にアップロードするファイルは提出書類毎に作成し、**一つのzipファイル**にまとめてください。なお、アップロードするファイル（PDF、zip等）には**パスワードは付けないでください。Zipファイルのサイズは30MB以下を推奨します**。
- ⑧ アップロードされたファイルにおいて、ウイルス検知又はその疑い等があると当機構が判断した場合は、調査のため第三者へファイルの提供を行う場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- ⑨ **公正な審査を行うための利害関係の確認として、Jグランツ上で必要事項の入力を求めています**ので、あらかじめご了承ください。

応募方法（Jグランツ：公募ページ・申請フォーム）

このサイトは日本政府公式Webサイトです

Jグランツ

補助金を探す 申請の流れ よくあるご質問 API

ログイン

「ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業／ロボット基盤モデルの研究開発（GENIAC）（補助）」の公募

概要

補助金のキャッチコピー

補助金のサマリー

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）は、「ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業／ロボット基盤モデルの研究開発（GENIAC）（補助）」の実施者を広く一般に公募いたします。本件について受託を希望する方は、NEDO HPをご確認いただき御応募ください。
https://www.nedo.go.jp/koubo/CD2_100427.html

補助上限額

補助率

類型

条件

業種 学術研究、専門・技術サービス業

従業員数の上限 従業員数の制約なし

利用目的 研究開発・実証事業を行いたい

当サイトの代理申請 不可

詳細

公募要領

一覧に戻る

ログインして申請する

質問と要望受け付けています

FAQチャット

このサイトは日本政府公式Webサイトです

Jグランツ

事務局審査サイト

申請一覧 事業一覧 問合せ一覧

申請

申請先情報

補助金名 「ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業／ロボット基盤モデルの研究開発（GENIAC）（補助）」の公募
申請フォーム名 申請フォーム

事業者基本情報

■GビスID等の事業者情報が自動入力されています。

事業形態

法人番号／事業者識別番号

法人名／屋号

代表者名／個人事業主氏名（姓）

代表者名／個人事業主氏名（名）

申請担当者の連絡先

■GビスIDのアカウント利用者情報が自動入力されています。必要に応じて修正ください。

必須 会社部署名／部署名

0 / 64

必須 担当者氏名（姓）

必須 担当者氏名（名）

必須 連絡先電話番号

必須 担当者メールアドレス

応募方法（Jグランツ：NEDO事業の公募における応募受付について）

English 検索

公募 事業紹介 成果・評価 契約案内 NEDOについて

ホーム > 公募

公募

公募情報の検索ができます。より詳細な絞り込みは、詳細検索をクリックして絞り込みたい条件を設定してください。

キーワード（スペース区切りで絞り込み）

入力してください

検索 + 詳細検索

お知らせ

2025年12月より、Jグランツでの応募受付を行います。Jグランツでの応募にはGビズIDが必要です。
[NEDO事業の公募におけるJグランツでの応募受付について](#)

あわせて、2025年12月よりe-Radの運用を一部変更します。詳細は以下を参照ください。
[NEDO事業におけるe-Radの手続きについて](#)

公募情報

English 検索

GビズIDプライム発行までの期間、手続き方法について

GビズIDプライムの発行までの期間、手続き方法について、詳細は以下をご覧ください。
[GビズIDサイト](#)

Jグランツでの応募にあたっての留意点について

Jグランツでの応募にあたっての留意点がございますので、応募の際は以下資料を必ずご確認くださいませよう願いたします。

[NEDO事業の公募におけるJグランツでの応募受付について \(498KB\)](#)

問い合わせ先

Jグランツに関する一般的な内容について

以下のページによくあるご質問及びFAQチャットによるご案内がございます。
[Jグランツポータルサイト](#)

GビズIDについて

以下のページによくあるご質問及びお問い合わせ先の記載がございます。
[GビズIDサイト](#)

応募方法（Jグランツ：事業者クイックマニュアル・Q&A）

このサイトは日本政府公式Webサイトです ▼

Jグランツ 補助金を探す 申請の流れ よくあるご質問 API ログイン

申請の流れ

Jグランツで補助金を申請して受け取るまでには大きく3つのステップがあります。詳しくは補助金によって必要な手続きが異なります。

※Jグランツの詳しい使い方はマニュアルをご覧ください。

事業者クイックマニュアル

①申請 公募申請、交付申請 → ②事業実施 計画変更など手続き → ③受け取り 実績報告、請求

①申請

- 1. 補助金を検索**
申請したい補助金を「補助金を探す」から検索する。
- 2. GビズIDの取得/ログイン**
申請したい補助金を見つけたら、GビズIDを取得して、ログインする。
※GビズIDの取得には2～3週間ほど時間がかかります。
- 3. 公募の内容を入力して申請**
必要事項を入力し申請する。

質問と要望受け付けています

FAQチャット

このサイトは日本政府公式Webサイトです ▼

Jグランツ 補助金を探す 申請の流れ よくあるご質問 API ログイン

よくあるご質問

Jグランツについて 利用環境 ログイン 補助金への応募

チャットボットでもご案内しています

画面右下のチャットボットを押下し、質問文を入力又は表示されるカテゴリから選択してください。

スムーズに見つけるヒント：カテゴリからの選択が短文・単語での入力が円滑です。なお、補助金個別のご質問はチャットボットではお答えできませんので補助金ごとのお問い合わせ窓口にお問い合わせください。

チャットボットでご案内中の全てのQAをPDF形式でダウンロード

1. Jグランツについて

Q1-1 補助金とは何ですか。

補助金は、国や自治体の政策目標（目指す姿）に合わせてさまざまな分野で募集されており、事業者の取り組みをサポートするために資金の一部を給付するというものです。返済する必要はありません。また、補助金は後払い（精算払い）ですので、事業の実施後に必要書類を提出して検査を受けた後に受け取ることができます。

詳しくは、以下中小企業向け補助金・総合支援サイトをご参照ください。
<https://mirasapo-plus.go.jp/subsidy/guide/>

質問と要望受け付けています

FAQチャット

- **応募〆切**

- **2026年3月23日(月) 正午まで に 申請(アップロード)完了**

※資料アップロードに時間がかかる場合があるため、余裕をもってご準備ください。

- **問い合わせ先**

- NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）

AI・ロボット部 土井、外村、杉村

電子メール：[pj_robo_fma\[*\]nedo.go.jp](mailto:pj_robo_fma[*]nedo.go.jp)

（上記アドレスの[*]を@に変えて使用してください）

問い合わせ受付は 2026年3月18日(水)17時まで とさせていただきます。